

自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
I. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	入居者さんの権利を大切に、地域の中で暮らし続けることが出来るよう、地域で行われる行事に出来る限り参加し、また施設の行事参加への呼びかけを行い地域とのかかわりを大切にしている。	○	日常生活の中に理念が反映されてはじめてその意味が存在すると思います。改善すべき所は、朝の申し送り、会議等で、話し合いを行っていますが、この意味においてより職員との共有化を図っていきたい。
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	日常実践の中で日々カンファレンスを行い理念の共有に取り組んでいる。	○	スタッフ全員が、内容を理解した上で朝の申し送り時に声に出し、読み上げを行い、意識を高めるという取り組みを実施し、職員の意識変化につながったが今後も継続していきたい。
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	……	○	まだまだ不十分の為、今後も機会ある事に伝え支援の柱となる理念の理解に努める。
2. 地域との支えあい				
4	○隣近所、地域とのつきあい及び地域貢献 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけあったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいが出来るよう努めている。事業所は地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。また、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。担当職員はキャラバンメイトになるなど、地域の認知症普及活動に参加している。	散歩や買い物、又施設の前を通り過ぎる方はこちらから積極的に挨拶をする。地域の小、中学校の運動会への参加や近所の方々への施設主催の夏祭り等に参加していただいたり、行事等へのボランティアへの参加、交流に努めている。	○	地域清掃を行ったりして、地域の方に、グループホームに興味を示してもらい、ボランティアの参加しやすい環境を作りたい。地域の老人会、保育所との交流を深め互いの行事への参加、行事以外にも気軽に地域の方々が遊びに来れるような環境作りを行っていきたい。村の行事にも積極的に参加し近隣住民とのふれあいの機会を増やす。

3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
5	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価についての意義や目的を職員に伝え、自己評価は全スタッフの意見を取り込み、評価後の結果を全員に伝え、改善に向けて、会議等で意見を出し合い改善に取り組んでいる。	○	よりよいサービス提供が出来るように評価を客観的に受け止め、職員全体の意識付けに取り組んでいる。
6	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	前期の外部評価の公表、利用者への取り組みを話し合ったり、情報交換を行い、意見をサービスに活かしている。	○	今後入居者さんとのふれあいの場（会食など）を設け実状をみていただく。メンバーよりいただいた貴重な意見は、更なるサービスにつながるようにとり組んでいく。
7	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、運営や現場の実情等を積極的に伝える機会を作り、考え方や運営の実態を共有しながら、直面している運営やサービスの課題解決に向けて協議し、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	必要な情報は担当者と話し合い現状を伝えている。推進委員以外の方々とのかかわりをもつ機会をもっと増やし色々な意見を参考にサービス向上に役立てたい。	○	地域の中でグループホームが何か役割が担えるよう関係機関と連携で働きかけホームの向上を目指していきたい。
8	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	権利擁護に関して、職員一人ひとりが十分理解できるように外部研修に積極的に参加し、復命の機会をつくり、本人の学びを深めながら、他職員に周知している。必要なケースが生じた場合スタッフへが対応できるよう努めていきたい。	○	いつでも確認できる情報を準備する。ご家族に制度のお知らせ活用できるまでの支援を行う。勉強会を通し個々のスキルアップに努めていきたい。
9	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	日常的に虐待防止に努めている。入浴の際の全身観察、研修後の復命会をとうして職員の虐待に関する意識を高めている。	○	ケアの中で当たり前に行っている事が虐待に当たらないか確認、注意を払う。

4. 理念を実践するための体制				
10	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約内容、重要事項、生活上の事、考えられるリスクなど十分な説明を行っている。	○	その時は納得していても、一時的なものになっているところがあるため、時と場合に応じて家族の意見を確認しながら、生活上大事な事である為誠意を持って今後も説明していきたい。
11	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ホーム玄関にアンケートを設置し常に意見や苦情を運営に反映できるようにしている。	○	家族面会時には入居者との会話の中で気になることがあれば報告いただくようにしている。苦情申し立てが出来る公的機関があることを説明していきたい。
12	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	毎月一回は現在の状況を電話にて報告。又金銭に関しても毎月お小遣い帳のコピーと領収書を家族へ発送している。	○	それぞれの家族がホームでの生活を感じ取れるような報告を心がけていきたい。
13	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関にアンケート意見箱を設置している。また面会時には、気軽に話してもらえ雰囲気作りを心がけている。苦情の合った場合は職員で対策を話し合う。	○	家族には遠慮があり中々言い出せないこともあると思われる為、こちらから電話での会話の中や訪問時声掛けをしながら気軽に言いやすい雰囲気に心掛ける。
14	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日常職員の思いに耳を傾け、常に話し合える場面を作り反映させ職員一人ひとりの志気の向上に努めている。		
15	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	状況に応じた勤務体制、時間調整、職員個々の要望を十分に聞き入れ調整を行っている。利用者の状況に合わせ柔軟に対応が取れるような体制作りをしている。		

16	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>離職、移動は信頼関係、馴染みの関係を築く上で避けたいがその場合は利用者にきちんと説明し理解を得るようにしている。</p>	○	<p>利用者が自然に感じるような声かけを心がける。馴染みの関係と更なる信頼関係が作れるよう、声かけ、対話、傾聴を続けていきたい。</p>
5. 人材の育成と支援				
17	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>職員育成体制があり、資格取得支援も行っている。各種研修案内は回覧し希望を募る。研修終了後の復命会による内容の共有により全職員が前向きに取り組める体制を取っている。</p>	○	<p>他、グループホーム内での勉強会等を行い個々のスキルアップをはかり、また職場内研修をもっと増やし、職員個々のレベルアップにつなげたい。</p>
18	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>地域の同業者との勉強会の機会を持ち、個々のレベルアップを図っている。</p>	○	<p>他、施設とのネットワークを作り、意見交換や情報交換を行い、参考にしながらサービス向上に役立てたい。外部研修等に参加した際は、情報交換を目的に交流を図って行きたい。</p>
19	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための良好な工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>無理のない勤務体制と職員の協力体制は整っている。しかい入居者の状況変化の対応や変則勤務からの疲労感等、正直あるため必ずしも良好の環境とは言えない。職員のストレス軽減のために不定期ではあるが交流会を設けながら何でもいえるきっかけ作りをしている。</p>	○	<p>職員笑顔がいっぱい優しい気持ちで仕事出来るよう今後も職場環境を整えていきたい。</p>
20	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>年に2回個別面談を行い現場の状況やスタッフ間のことホーム全体のことを話せる機会を設けている。職場での職員一人ひとりの業務内容や取り組み姿勢を観察把握し、職員同士のやる気につながるような声掛けをしながら日々努めている。様々な研修にも職員を段階的に参加できるよう配慮している。</p>		

II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
21	○初期に築く本人、家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人、家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	家族からの聞き取りの時間を十分に設け、家族が不安に思っていることを受け止め安心していただけるよう話し合いをしている。また、利用者の不安などに傾聴し、話しやすいよう配慮している。本人の要望、悩みを聞く環境を作っている。	
22	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時、家族からの聞き取りと、本人の行動や言動を注意深く見させていただき、必要とするサービスを見極め最良い支援が出来るよう努めている。	
23	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に体験入所や見学、他入居者とのふれあいを持っていただき、馴染める環境を提供している。同じ屋根の下で暮す仲間、家族として笑い声のあふれる雰囲気の中で生活を送れるようこころがけている。	
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
24	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	食事作りや掃除などの日常生活の中で、喜びや達成感を一緒に味わったり、おやつ作りなどで職員が教わる機会を作っている。	○ 共に過ごしていく中で“助け合い生活していきましょう”と言葉と表情で示すことを心がけている。また利用者から学ぶことは様々な場面で有り、感謝と尊敬の念を素直に表現出来るような関係がよりいっそう築かれいければと思う。

25	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	入居者のその人らしさを私たち職員が見極め、全職員が出来ること、出来ないことを共有し、その人にあった支援体制づくりをしている。	○	家族会を発足し、機会ある事に入居者を一緒に支えることの大切さを伝えていきたい。また家族参加行事や家族と一緒に施設環境整備等を企画しながら家族との協力関係を深めていきたい。
26	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	本人希望時、施設から電話をし家族と会話を持っている。家族の介護負担を私達が軽減することにより、入居者と家族の精神的なつながりを、深める努力をしている。	○	面会時には、日頃の様子を伝えながら、家族の不安に思っている事や望んでいる事等言える機会を持つことにより、家族との良好な関係を築いていきたい。
27	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	これまでの行きつけの場所等は今後も大切にしていける。知人等が気軽に来訪できる環境づくりに努力したい。	○	馴染みの人々が気軽に訪問できるよう工夫が必要かと思えます。
28	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者間に職員が参加し話題づくりをしつながら関係が保てるようにしている。	○	入居者が和気あいあいとなるような環境の工夫が必要と思う。
29	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	長期入院し契約が終了となった場合でも、病院を訪問し本人、家族の相談には親身に対応している。退去された家族の相談事にも応じている。		

Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
30	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの体調や気分に合わせて、思いを大切に、生活に反映できるよう常に職員同士で話し合いを行っている。うまく思いを伝えられない入居者については、表情やしぐさ、行動から気づきを大切にされた支援に心がけている。	○	本人からの聞き取り、次に家族への確認をし、これまでの生活歴を大事にした話し合いをもっと充実させる。
31	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の生活を大切にしながら引き続き家族から情報を収集し、安心して生活が送れるよう、日々配慮している。	○	入居後も近所との交流や自宅外出の機会に情報収集しながら、施設での総合的支援に努める。
32	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	本人のペースを優先した支援に心がけ、日々無理なくリラックスした生活が送れるように支援している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
33	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人の日々の状況から常に生活のあり方を考え、定期的なケアカンファレンスや、状況に応じて随時検討会をもうけその時々状況に合った計画作成に努めている。また電話や訪問時の会話等で家族の思いを受け止めて計画に反映している。	○	意向の把握が困難な入居者の介護計画をどのように計画立案していくか、本人の生活歴の収集を綿密にすると共に家族とのその時々話し合いが必要と思う。
34	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	日々の気づき、意見を取り入れ、問題点、や支援方法の話し合いを行っている。3ヶ月で定期的なプランの見直しを行う。また状況変化により随時プラン見直しをしている。	○	チームで情報の共有。今一番必要な支援を介護計画に反映できるよう、チームでの情報の共有と取り組みを強化したい。

35	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録は出来ているが、全職員が共有し統一した対応ができていないことがある。	○	日々の情報共有を図り計画の見直しにいかしていきたい。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
36	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	共用型デーサービス運営や家族を中心にした外部の講師による勉強会を開催している。	○	地域との関係機関との連携を図り、施設の特性を生かした多様なサービスで、満足感を高められるような支援できるようにしていきたい。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
37	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	地域ボランティアの募集、協力が得られるよう働きかけを行っている。消防の避難訓練を年2回、救命法の講習を年1回行っている。	○	多方面からの協力が得られるよう、地域にもっと働きかけをしていきたい。
38	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	必要に応じて地域のケアマネジャーや医療機関と話し合いを綿密にしながら、社協の移送サービス利用や、地域のかかりつけ医の往診体制が整っている。		
39	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域包括支援センターと協働している。運営推進会議にも参加していただいている。		

40	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者が希望する医療が受けられるよう、支援している。かかりつけ医による往診体制が整っている。	○	家族の都合が優先しないよう、本人の思いを家族伝えながら、本人が安心して適切な医療がうけられるよう今後も努める。
41	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	利用者の主治医が認知症に理解があり、その都度助言をいただいている。場合によってはメンタルヘルス科に受診しながら、主治医、メンタル科医師と連携で対応している。		
42	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	施設内には看護師が常勤し、日々の健康管理をおこなっている。	○	今後地域の医療機関との連携を強化し、信頼関係を深めていきたい。
43	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	退院後安心した生活が送れるよう、医療機関と情報交換や相談、指示をもらいながら、本人、家族が安心できるよう対応をしている。		
44	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	本人の意思確認が困難になったとしても、家族、主治医との話し合いをくりかえしながら方針の共有につとめている。	○	重度化、終末期に向け、今後、本人や家族、医療機関との話し合い、取り組みをさらに強化する。
45	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	本人の気持ちを重視し、家族と綿密に話し合い、要望を取り入れ安心して終末期を過ごせるよう職員のレベルの向上を図りながらに準備を調べている。。	○	本人の要望、希望を日常の会話から探り出す。利用者の日常の変化、体調などを常に家族との連絡、報告を取り合う。

46	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	生活状況や身体状況等情報交換を十分におこなない、互いに協力しながら本人のダメー防止に努めている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1)一人ひとりの尊重				
47	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	どんな時でも尊敬の念を持ち、言葉がけ、対応を心がけている。人前での介助や誘導時の声かけで本人を傷つけたりしないよう、利用者のプライバシーを配慮し、個人的な話がある場合は、居室内で話をしたりして対応している。記録物は所定の場所に保管している。	○	記録物等の書類、個人情報の取り扱いについて注意し、徹底する。
48	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	本人がどのような希望や思いをもっているのかを日頃の会話から気づき、毎日少しの時間でも全員の入居者に声をかけながら、本人の思いや要望に応えられるように、努力している。	○	今後も、入居者が遠慮なくなんでも話せるよう信頼関係を深めていきたい。
49	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	孤独感を抱かないように声がけかかわりを多く持つ。何事にも職員側の都合を優先しない対応をしている。	○	個々の行動を阻止せず、利用者本位の支援を心がけ、一緒にゆったり過ごしていけるよう配慮していきたい。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
50	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	美容師の資格を持った職員が中心となり散髪や毛染めをしたり、近所の馴染みの美容室に出かけたりと希望に添った支援ができています。		

51	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、可能な場合は利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の嗜好を考えながら食欲が湧くよう工夫している。、時には地元の食材を使った郷土料理を入居者と一緒に調理したり、食事時間が楽しいものになるよう取り組んでいる。また昼食は触れ合いを大切に一緒にいただいている。	○	食事の後片付けを常に一緒に出来る環境作りを心がける。
52	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	本人の希望や家族の理解があれば、本人の好みの物を提供している。		
53	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	本人の生活習慣や排泄パターンを把握し、気持ちよく排泄できるよう支援している。極力おむつ使用を減らしながら、機能向上に向けた取り組みをしている。	○	トイレでの排泄の大切さを職員が理解し、一人一人の排泄のパターンを理解し、おむつを使用しない排泄支援の強化を図っていく。
54	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴拒否がある利用者については、入浴前に対話し気分よく入浴できる支援を行う。入居者の希望を取り入れながら、リラックス空間を提供している。また、入浴剤を工夫しながら気分を変える取り組みをしている。	○	地域に温泉に出かけ、足湯に定期的に出かけ、リフレッシュをはかる。
55	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	入眠前に、話を聞いて、不安を取り除いたり、相談に乗ったりして安心して入眠出来る環境作りを、心がけている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
56	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一緒に掃除や洗濯たみをしなが本人に感謝の気持ちを伝えたり、生活の中から本人の楽しみや、やりがいを見出しそれをいかす支援をしている。	○	特定の入居者だけでなく、表現が困難な入居者の得意な事や、楽しみごとを見出し、入居者全員が張り合いのある生活が送れるよう支援していきたい。

57	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理できる入居者に2名で希望時自由に買い物できるよう支援している。他の入居者は施設預かり		
58	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	自由に出かけられる体制ではあるが、目的なく出かける場合があるため、常に対応できるよう職員は意識統一している。	○	気力が減退し、施設内の行動だけになっている入居者には、こちらから働きかけをおこない散歩等で外出支援、気分転換を図っていきたい。
59	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	外出の希望があった場合は、その時の気持ちを大切に可能な限り実現できている。。	○	その方の状況にあった外出支援をしていきたい。
60	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望に沿い、支援できている。	○	四季の移り変わりに絵はがきを自力で作成し、家族や友人に届けるなどの取り組みをする。
61	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	いつでも訪問できるよう日頃から機会ある事に声掛けをしている。また外来者参加の行事を儲け、気軽に訪問しやすい工夫をしている。	○	居心地の良い環境作り。また訪れたいと思えるような明るく元気な対応を全職員は徹底していきたい。。
(4) 安心と安全を支える支援				
62	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	拘束のないケアを心がけ行っている。	○	介護保険法を理解し、身体拘束に理解を深め、拘束のないケアの大切さを全職員が理解するよう努める。

63	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	夜間は防犯、安全のために施錠していますが、日中は鍵をかけずに出入りは自由。自由な行動を制限せずスタッフが付き添う。出入りがあった場合は、ブザーが鳴るよう取り付けている。	○	頻繁に出かけようとする入居者の対応として、これから寒くなる為、十分な行動観察と地域への協力要請をしていく。
64	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	さりげなく目配りし把握、些細なことでも職員同士声を掛け合い配慮している。		
65	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	薬は鍵のかかる場所、包丁やはさみ等は夜間目の届かない所、シャンプー、ボディーソープ、洗濯洗剤等全て鍵のかかる目の届かない場所に保管している。		
66	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	何が安全で何が危険か、ヒヤリハットが発生した際は、早急に原因と対策を講じ、事故防止につなげている。	○	事故防止のために、様々なリスクに対しての知識や、発生した時の対応等を会議や勉強会等で話し合う機会を多く作る。
67	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	救急救命法を受講したりしている。職員がすぐに動ける体制作りをしているが全職員が迅速に行動できる状態とは言えない。	○	今後も心肺蘇生法だけでなく、誤嚥、骨折等の対応がスムーズにできるよう訓練を実施する予定である。
68	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年二回避難訓練を行い、災害時に供え、非常食、水の準備も出来ている。	○	火災だけでなく、水害、地震等の避難訓練を実施し、災害時の備えての訓練強化を図る。また地域の協力関係も継続できるよう日頃から呼びかけをしていく。

69	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	生活の中で発生するであろうリスクについては、家族にその時々説明しながら本人本意の支援の大切さの理解を得られている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
70	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	バイタルチェックの際、言動、顔色の観察を行い、異常を早期に発見できるようにしている。申し送り時に状態変化、異変の情報を共有し看護師にアドバイスを受ける。		
71	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	毎服薬の際3チェックを実施している。①指差しし声出し確認②2人で確認③本人と対面で薬を声に出して確認して飲み込むまで確認、一人一人の薬の内容を理解し、誤薬防止に努めている。	○	一人一人に合った薬の内容を理解し、服薬の大切さを理解し今後も確実な服用に努める。
72	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	ラジオ体操やリズム体操を毎日行い、ご本人の負担ストレスにならない様に身体を動かしたり排便促進を図っている。飲食物の工夫をし便秘予防に努めている。	○	一人一人の排便周期を知り、飲食物の摂取量や運動方法等の一人一人に合った働きかけを工夫する。
73	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	一人ひとりの見守りや支援を行っているが、本人の力をいかしながらの支援ができていない。	○	できるところは本人の機能を活用し、出来ないところを補う支援の大切さを職員が理解し、統一した口腔ケアを行なっていく。
74	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養面の偏りがみられる。食べやすいように工夫しバランスの良い食事を提供していきたい。食事の摂取量に応じて補食や嗜好品を準備し対策している。水分は一日の提供量を合わせると1200CC以上で、気温や希望に応じて増量あり。	○	体重の増減、水分量、排尿回数等に留意しながら、栄養バランスを考えた食事を提供していきたい。

75	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	外出時にはマスクを着用し手洗いうがいの徹底。マニュアル作成し取り組んでいる。掃除の徹底。汚物処理の徹底。利用者職員全員、インフルエンザの予防接種を行っている。	○	外部からの進入を防ぐため訪問者には必ずうがい、手洗いをしていただき、体調が優れない方の訪問は極力控えていただくよう徹底している。感染対策については利用者に理解していただくのは難しい方もいるが、職員が色々な場面に对应できるように常に話し合っている。
76	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食器やまな板の消毒は使ったあと毎回、週二回の冷蔵庫の消毒も曜日を決めて実施。食材は買い置きを極力少なく、鮮度を保ち賞味期限も確認しながら、管理している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
77	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関は常に掃除、整理整頓を行い綺麗に保ち、ホーム前の花壇、鉢に花などを置き親しみやすい環境作りが出来る。ベンチを設置し誰でも休める環境づくりをしている。	○	気軽に出入りできるように「玄関先の階段に、手すりの設置を検討している。またベンチとテーブルを設置し、自由に休める空間づくり
78	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間には生活感や季節感を取り入れ（季節ごとの装飾など）、畳を敷いて横になれるような、安らげる空間作りを心がけている。	○	活発な利用者が多いため、いつもにぎやかであるが、静かに過ごしたい方もいるので、対応を工夫したい。
79	○共用空間における居場所づくり 共用空間の中には、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	自由に過ごせるよう確保している。	○	ほとんど、椅子で過ごす方が多いので、ソファでくつろぎ、足のむくみ防止などにもつなげて行きたい。

80	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の写真を飾ったり思い出の写真をおいたりしている。居室は生活しやすいように整理整頓を心がけている。安心して生活できる場所を作る工夫をしている。	○	身体状況に合わせて布団を敷いて休んでいただく方もいれば、ベッドのほうがご本人の負担にらない場合もあるのでご本人が何を求めているか必要性に目を向けて、環境づくりをしていきたい。
81	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	常に換気に気を配り、よどんだ環境を作らないようにしている。一日を過ごしやすい温度、湿度設定を行っているが、また利用者の意見を聞き対応している。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
82	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	本人の残存機能を活用し、本人のペースで生活できるよう、手すりの設置、洗面台の高さを調整したり、自立支援できるように環境作りは行っている。	○	声掛け等を工夫し利用者が負担に思わないよう、出来るところはやっていただける様な支援をしていきたい。
83	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	混乱等を招かないように大きな声は極力出さないように気をつけている。その人のわかる力にあった話方を職員間で話し合いその方にあった支援につなげている。	○	ゆっくり、解りやすく、大きな声にならない様に注意しながら対応し、傾聴に努める。残存機能を活かせるようにストレスにならないよう支援する。
84	○建物の活用 建物を利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	廊下を歩行訓練したり、手すりを利用しスクワット運動をしている。畑の野菜と一緒に収穫したりして収穫の喜びを満喫している。		

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

V. サービスの成果に関する項目		
項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
85	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
86	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
87	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
88	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
89	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
90	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○ ①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
93	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○ ①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
94	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="radio"/> ①大いに増えている <input type="radio"/> ②少しずつ増えている <input type="radio"/> ③あまり増えていない <input type="radio"/> ④全くいない
95	職員は、生き活きと働けている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> ②職員の2/3くらいが <input type="radio"/> ③職員の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
96	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
97	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> ②家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> ③家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】
(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

利用者に対して尊厳、尊敬の念を忘れずに言葉遣いを十分注意し、はっきり、ゆっくりと話すよう心がけています。又自尊心を傷つけないよう、人前での介助や誘導時の声かけで本人を傷つけないよう、利用者のプライバシーを配慮し、個人的な話がある場合は、居室内で話をしたりして対応している。(努力はしているがなかなか上手くいかないこともある) 家庭的雰囲気、我が家だと思えるよう心がけ、のんびり、ゆったりとした一日の生活リズムを邪魔しないように、利用者個人個人が思いのままに過ごしていただくことを優先しています。

できる力を発揮できる場面作りや、気づいてもらえるような働きかけなどを行い自然に出来るよう工夫しながら、健康で楽しい暮らしを支援することを実践しています。家族とのつながりを大切に、行事等への積極的な参加又何かしらの関わりと協力依頼を行い実際に協力を得て利用者の援助に役立っています。皆さんに身体機能ADLの低下が顕著に現れてきているため、そのための予防に今後は力を入れていきたい。夏祭りの際は地域のボランティアの協力関わりが年々大きくなり地域住民の楽しみの一つとなるよう今後も継続していきたい。地域との関わりをもっと広げ、風間浦村の福祉拠点になれるようみんなで一致団結していきたい。